ともかき

発行所
東京都立三田高等学校
青葉会
（同窓会）
港区三田1丁目4番46号
電話（453）1991㈹

いつまつる集い
青葉会の11月23日が待い
母校旧友

同窓会（青葉会）の集いを毎年勤労感謝の日に設定してから七回目を迎えました。

回を重ねる毎に参会者も増え、懐しい旧友、恩師にお会い出来る日になりました。お子さん、お孫さん同伴でも結こうです。

本年は左記の通り実施致します。ご来会をお待ちします。

◇青葉会（総会（懇親会）

○日時　11月23日13時～16

○場所　母校音楽講堂

○会費　一名二千円（当日受付）

以上

石田弘会長　皆さんお元気でしょうか。愈々本年度の青葉会を目前にし、役員一同とその準備にとりかかっております。この年一回の会合を何か皆さんに印象深い集いにしていただくべく今年度も噺家の三遊亭小金馬師匠のご来演をお願いする等、他の会合であじわえない趣向を凝らしてお迎えすべく奔走して居ります。ご多忙の事とは存じますが一日のお憩ぎを皆さんとの語らいにお頒ち下さって、明日からの英気を養なう佳日になることをお願いします。

青葉時代
三田に学んだ幸せを
若き輩に

名誉副会長
教頭　内藤　伸

この原稿を書くに当って、前教頭菊池先生の「ともかき」に掲載した今までの記事を読ました三年間のそのいずれにも、海軍時代の話が出て来る。その当時、先生は十代の後半から二十代の前半にかけてであろうから、感性の最も強い時期に受けた体験が、いつも脳裏に貼り付いているものと矢礼ながら推測する。

青葉会の皆さんが、三田高校におられたのは、大抵の人が、この十代後半であろうから、思想形成の大切な時期に本校の学び舎に友と机をともにしたことになろう。

そのときに、どんな師や友に恵まれるかは、本人の関与し得ない部分もあるが、それだけに、この時期を振り返ってみたとき、自分が如何に幸運であったかを自覚する人が少くないであろう。それは創立五一周年記念誌やともがきの通信欄を見てその感を深くした。

青葉会員の皆さんが、自分で本校に学んだ頃と比較しながら、現在の社会や生徒たちの様子、あるいは三田の地に思いを馳せることは、興味深い事ではないかと思われる。

現在の定時制が、以前と大きく様変りしていることが話題にされるが、変化する世の中に則応して育つ子ども達の変らないことの方が不思議といえよう。現在の青少年たちは、帰属意識が乏しいなどといわれるが、これだけ物質的に恵まれた世の中は、一人一人がてんでんばらばらでも暮していけるということであろう。しかし、人間は所詮、社会的動物である以上、仲間の中に育まれる同属意識が必要なのである。精神的安定を保つためには、これが欠くべからざるものであり、同窓会のもつ意味も、そこに存するように思えてならない。

昨年、初めて青葉会の総会に出席する機会に浴し、会員の皆さんが和気藹々の雰囲気の中で、筋金の通った会の運営に強い印象を覚えた。このような真執な役員や会員たちに支えられている青葉会はこれから真立つ若者たちに是非必要な会であり、益々発展していくことが約束されているように思う。

青葉会の予備軍である在校生は、本年九月現在で、男子百十四、女子三十七の合わせて百五十一名の在籍である。当月当初は、百五十二名であったから、数の上では二十一名の減員となった。しかし、その中には、入学手続きだけでその後、全く登校しなかったり、それに近い者が多数含まれているから、真の意味の退学者はずっと少ないといえる。四年生の退学者はさすがになく、二十二名と少数ながら、いずれもしっかりした生徒たちで卒業は間違いないものと思われる。よき青葉会員になるものと自信をもって送り出すことができる。この生徒たちも、六月初めには、長崎・熊本方面へ修学旅行を無事終え、九月末の体育祭でも元気に活躍し、高校時代のよき思い出を作って、飛び立つ整備に力を注いでいる。

本校定時制の専任教員は、校長教頭を含めて十五名である。事務関係の職員や講師を合わせて、総数三十名からなる。今年の転入教職員はベテランと新進気鋭の四名であるがいずれも元気者であり、本校に新風を吹き込んでいる。

いくら教育的体制が整っても、また、その中で生徒たちが精一杯頑張っても、人間の精神的成長には時間がかかる変化の著しい社会に自分を適合させ、快適に生きていくためには、生涯にわたって学習していかなければならない。一人閉じ籠って勉強しても高が知れている。私ども教職員は、生徒を社会に送り出すいま、生涯教育の一環としても、この健全で和かな青葉会に入会させ得ることに、大いなる安堵感を抱いている。

青葉の時代に三田に学んだ幸せを噛み締めながら、次代の若い後輩達に、よき伝統を継ぎ育てて行くことを切望する。

青葉会の皆さんへ

名誉会長
学校長　藤川倔二

暑い日の眼差しをふんわりとやわらげてくれたアジサイの花も、何時しか潰え。マンションの谷間にこだましたラジオ体操のリズムも消えて、愈々実のリの学期を迎えております。

青葉会の皆さん、お元気でしょうか。ご健勝で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

ご協力に感謝

日頃から母校三田高校に対し温かいご支援をいただきありがとうございます。毎に在校生徒皆さんへの就職斡旋など特別なご配慮をいただき職員生徒共々深く感謝を致し元気よく「教育目標」達成に努力が続けられております。

母校の動静

私も着任二年目を迎え、この春には二十名の卒業生が青葉会の新会員として巣立って参りました。その内訳は男子一〇名、女子一〇名となっております。女子校としてスタートした本校も、男女共学になって以来も、女子生徒の入学が多数を占めて居りましたが、昨今は女子生徒の入学激減し、現在一年生の如きは男子四七名に対し、女子三名になっております。

ご承知のように昨今は定時制への入学者が少なく、三クラス編成だった本校も、今は二クラス編成で運営致して居ります。そんな沢で往年の雰囲気とは変った一面もあるかも知れませんが、創立以来の本校の教育目標が達成される過程の中で、そう変化をもたらすとは思われません。

今年巣立って新会員となった二十名もきっと皆さんと同じ三田高校気質は変らないものだと思います。どうか皆さんのよき弟妹として、育んで下さることをお願い致します。

本校教育目標の中で

「夕礼」の時、生徒に本校創立者丸山先生が『教育目標』の第一条に「健康な人になろう」を掲げて下さったことについて、お話し致しました。

心身ともに"たくましく生きる"ことについて「健康な人間」であることが如何に大切なことであるかを強調なさった証左だと思うのです。

ノンベンダラリと生きる人間が動物の段階に退歩したかのような生き方、それではいけない、人間である限りあきらめない向上心を持ちたまえ。動物との違いは、向上心をもって努力することなのだ。とともすると無気力な生活に流れがちな生徒達に活気を入れるべく訴えているのです。

この第一条の「健康づくり」こそが国際化が指摘される新しい時代に、新しい特色ある学校づくりでなければならないと思うのです。

皆さんの今日迄培って下さった本校の偉大な伝統・校風を忘れることなく一生懸命になっております。どうか今後とも青葉会皆さんの温かいご支援をお願いし益々のご多幸ご発展をお祈りしております。

おな十一月二十三日（日）「青葉会総会」の席上、健康な喜輝とした皆さんの芳顔に接することが出来ますことを今から楽しみにして筆をおきます。

青葉会の皆さん
お元気でしょうか

久保道雄（元教頭）

私は51年から57年迄、丁度創立五十周年の祝賀の頃在勤し、皆さんのおかげで大変楽しい日々であった事を思い出しております。昨年三月定年退職し現在は部教委の中央、就学相談所に勤務しております。

（前都立東高校長）